

2012年1月1日～2022年4月30日の間に 耳鼻咽喉科において内視鏡下副鼻腔手術を受けられた方へ

—「上顎洞炎に対する画像診断と治療方針決定に関する研究」へご協力のお願—

研究機関名 岡山大学病院

研究責任者 岡山大学学術研究院医歯薬学域

顎口腔再建外科学 助教 有村 友紀

研究分担者 岡山大学学術研究院医歯薬学域

顎口腔再建外科学 准教授 天野 克比古

岡山大学学術研究院医歯薬学域

顎口腔再建外科学 助教 永田 裕樹

岡山大学病院 口腔外科・顎口腔再建外科部門 医員 徳重 侑

岡山大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教 檜垣 貴哉

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

上顎洞炎は鼻性、歯性、両方が混在したものに分けられ、医師・歯科医師が関わる疾患です。しかし、その治療にはどちらか片方が携わることが多く、医科・歯科両方の観点から疾患を見ることは稀です。歯性上顎洞炎は上顎洞病変の10～20%程度とされている比較的頻度の高い疾患ですが、治療に関わる明確なガイドラインはありません。そのため、治療を担当する科・施設・医師によって治療方針が異なります。

そこで、当院の特徴である医科歯科連携を生かして、今後、より良い治療方針の立案を行うため、この研究を行うこととしました。過去に当院耳鼻咽喉科にて上顎洞炎に対して内視鏡下副鼻腔手術を施行した患者様を対象とし、CT画像を歯科医師が読影し、歯性上顎洞炎の有無を診断します。歯性上顎洞炎であれば、原因歯の検索や細菌の種類等との関連を探ります。また耳鼻咽喉科と口腔外科で最善の治療法について検討します。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

研究成果により将来の医療の進歩に貢献できる可能性があります。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2012年1月1日～2022年4月30日の間に岡山大学病院耳鼻咽喉科において内視鏡下副鼻腔手術を受けられた方1130名を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認後～2025年3月31日

3) 研究方法

2012年1月1日～2022年4月30日の間に岡山大学病院耳鼻咽喉科において内視鏡下副鼻腔手術を受けられた方で、研究者が診療情報をもとにCT画像や細菌検査などのデータを確認し、上顎洞炎に関する分析を行い、治療方法を検討します。

5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・ 年齢、性別、主訴、既往歴
- ・ 診察所見、治療内容、CTや細菌検査・血液検査などの検査データ、治療経過

7) 試料・情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後10年間、岡山大学病院口腔外科（再建系）医局内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

8) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様が不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学学術研究院医歯薬学域

顎口腔再建外科学

氏名：有村 友紀

電話：086-235-6697（平日：9時00分～15時30分）

ファックス：086-235-6699